

錦糸町わくわく通信

2018.11
第25号

●お問合せ●
東都よみうり新聞社
TEL.03-6663-9010

今年もイルミネーションが 錦糸町北口を彩ります!



錦糸町駅北口の東西に延びる500メートルのエリアに約20万球のLED電球を設置し、下町風情を演出したイルミネーションで町を彩る。16日は午後3時50分からアルカキット前で点灯式も行われ、バンドによる生演奏などを繰り広げる。

詳細は、
「株式会社アルカタワーズ」イベント
<http://www.arcataw.co.jp/event/index.htm>



アルカタワーズ錦糸町イルミネーション2018～2019

[期間] 11月16日(金)午後5時～2019年2月14日(木)午後11時
[場所] アルカタワーズ錦糸町(アルカキット、アルカキットを含む)
[点灯時間] 午後3時～11時(16日は5時点灯)

東武ホテルレバント東京
スカイツリー®ビューレストラン



東武ホテルレバント東京24階にあるスカイツリー®ビューレストラン「簾」が11月1日(木)リニューアルオープン!旬の素材とこだわりの出汁を贅沢に使った日本料理と、とちぎ和牛を中心に厳選した肉を大きな塊のまま炭火でじっくり焼き上げる炭火焼フレンチ。最上階からの眺望とともに至福のひとつときを!

※ディナーは日本料理が7,722円～フレンチは11,800円～

【問い合わせ】レストラン予約課

☎03-5611-5591



楽天地の映画館が 「TOHOシネマズ錦糸町楽天地」に!

全館リニューアル工事が進む楽天地では、映画館が11月16日から「TOHOシネマズ錦糸町楽天地」に生まれ変わる。以前より大きなスクリーン(最大1.4倍)と新たなスピーカーで映画の迫力も倍増。「TOHOシネマズ」の映画館として北口の「TOHOシネマズ錦糸町オリナス」の8スクリーンと併せて12スクリーン約2300席で一体運営し、今後はネット予約による座席確保も可能になる。

第1回 錦糸町ラーメンスタンプラリー

【主催】 錦糸町商店街振興組合、一般社団法人てんてん

【日時】 11月16日(金)～12月1日(土)

【会場】 錦糸町周辺のラーメン店12店

参加店に置かれたスタンプカード付チラシを提示すると大盛りやトッピングのサービスを受けられる。3店以上のスタンプを集めて応募すると「うまい棒」1000本や「錦糸町ラーメンサミット」招待などのプレゼントが抽選で当たる。詳細はチラシをチェック。

【問い合わせ】 03-5608-2581 (東京アート印刷所内 午前9時から午後6時)



【新日本フィルハーモニー交響楽団】

超ジルベスター・コンサート2018→2019

大晦日に宮川彬良さんと新日本フィルハーモニー交響楽団が贈る歌と笑いのコンサート。合唱団がスポンサー名を高らかに歌い上げる「パトロネージュの歌」も必聴!



宮川 彬良さん ©PACO

- 【主催】 新日本フィルハーモニー交響楽団
すみだトリフォニーホール
- 【日時】 12月31日(月)午後3時開演
- 【会場】 すみだトリフォニーホール
- 【曲目】 ミュージカル『家なき子』より「前へ、前へ」
「風のオリヴァストロ」ほか
- 【指揮・ピアノ・司会】 宮川 彬良
- 【チケット】 S席：6000円(65歳以上および
墨田区在住・勤・学は4500円)、
A席：4000円、中学生以下(4歳
以上)：S・A共1000円
- 【問い合わせ】 新日本フィル・チケットボックス
☎03-5610-3815

第5回 東京商材对接展

どなたでも入場無料!

日本製の商品を中国へ紹介するマッチング展

【主催】 株式会社日本テクノ開発

【日時】 12月8日(土)・9日(日)

午前11時～午後5時

【会場】 すみだ産業会館(丸井錦糸町店8階)

入場無料

両日共、先着110名様にお土産プレゼント

【問い合わせ】 日本テクノ開発 ☎03-3829-6281



会員情報

錦糸町の清掃事業から建物総合管理のプロフェッショナルへ

【企業情報】 二幸産業株式会社

【設立】 1959年

【所在地】 新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル36階

二幸産業株式会社は、錦糸町の商業施設を清掃する仕事から成長したビルメンテナンスを主とした会社です。現在は不動産事業、介護事業、環境事業を展開し、来年は創業60周年を迎えてさらなる成長を目指しています。「錦糸町を元気にする会」の入会を機に新たなお客様や仲間とコラボして今までに無い業種を生み出したいと考えております。防水、耐震、地盤沈下、床の傾き、壁面補修・壁面塗装、植栽剪定など、自宅のリフォームでご用命があればメール又はお電話にてご相談ください。(見積無料)

【担当部署】 東京第二支社 千代田区丸の内2-2-1岸本ビル2F
☎03-5293-2872 E-mail:tokyo-2@nikoh-sng.co.jp

錦糸町の

語り部たち

町の重鎮に聞く土地の記憶

第1回(前編)



河西 紀道さん(78)
(そばの里みつまさ 店主)

※このコーナーでは昭和から平成にかけて錦糸町の変化を見てきた町の重鎮の方々に思い出を語ってもらいます。1人目は、「そばの里みつまさ」の河西さんです。

——錦糸町南口で手打ち蕎麦を出す店「みつまさ」は創業93年と聞いています。

河西：祖父が現在のオリナスの場所にあった精工舎の前で大正14年に食堂を始め、東京大空襲で焼け出されて昭和21年3月に南口に移転した。表通りに店を出す予算はなく、空いていた場所に入ったけど、道一本下がっているのが悔しかったね。今のように風俗店が並ぶピンク通りになる前は医院や美容院もあった。蕎麦を手打ちに変えたのは平成4年からで、亀有の「吟八亭 やざ和」に修業に出した息子が戻って店を継いだ。この時から出前を一切止めたから最初は年間100万円ぐらい赤字が出たけど、なんとか耐えられた時代だったんだね。

——錦糸町が現在のようないつごろからだと思いますか？

河西：はっきりと流れが変わったのは昭和39年の東京オリンピックに向かう頃だね。それまでも花壇街やダービー通りのような繁華街があったけど、オリンピックを契機に錦糸町にも企業の支社が置かれるようになった。飲み屋やピンクサロンがあればオフィス街も何でもある「ミニ新宿化、したといってもいい。一番実感したのは店の定休日が変わったことで、サラリーマンが多くなったからそれまで火曜だった定休日を週末に寄せて土曜日に移した。あの時の感じは2年後の東京オリンピックに向けて盛り上がっている今の時期に似ているが、高度成長期も重なって今よりもっとすごい勢いだった。

(後編は次号に掲載します)

